

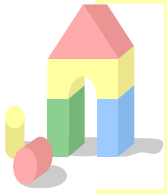
矢板 希望の星

矢板市内では大型スーパーで玩具を扱っているところもあるが、玩具専門店は「(株)金太郎玩具店」だけだ。

店頭で子どもたちが仲良く遊ぶ光景が見られるが、実は、やいたの花火大会の陰の立て役者でもある。

初代の父が花火を担当し、二代目が玩具店を運営。

渡辺将一さんは、おもちゃの世界を通して、子どもたちの成長を見守っている若き後継者の一人である。



世代を超えた交流の場を



渡辺将一さん (37歳)

新潟の大学を卒業後、父の経営する玩具店「きんたろう」を継ぎ15年。学生ころから店の手伝いをしていた、子どもが好きなので何のためらいもなくこの仕事に就くことができたといいます。

●花火のきんたろう

花火店を経営するには、国家資格の火薬類取扱保安責任者二名が必要で、父親が大の花火好きで、昭和五十年ごろには花火打上げ従事者の資格も取得していました。正式に花火の打ち上げの仕事を始めたのは、十二年前からです。

矢板の秋の花火大会、りんどう湖の夏の花火大会、那珂川水遊園の花火大会などの大きなものの以外にも、県北を中心に結婚式場や自治会、テーマパークなどさまざまな団体や企業からの依頼を受けています。

●国内では売っていないようなおもちゃ

私の代になってからは、海外製の知育玩具に特に力を入れていきます。国内の玩具店ではほとんど取り扱いの無いような商品を集めて展開しています。

日本では製造できない水中花火や連発花火は中国から直輸入し、卸販売もしています。父が中国まで出向いて、実物を見て買い付けし、船便で送ってもらっています。

ちなみに、矢板の花火大会は約三十名の花火師が総力を挙げて打ち上げに携わっています。

それ以外にも、日本のおもちゃメーカーでは作っていない恐竜のフィギュアなど面白い商品がたくさんあります。

●流行のおもちゃ

最近ではミニ四駆と遊戯王カードゲームが人気で、遊戯王は毎週末に大会を行っています。全国大会や世界大会まであるメジャーなカードゲームです。

ドゲームで、当店の大会参加者で世界大会に出場したような子もいます。

ミニ四駆は私が小学生のころからあるおもちゃで、昔遊んだ世代の方が、社会人になってからも会社の仲間とチームを作ったりまた始めたのをきっかけに親子で夢中になったりと、形はさまざまですが、今一番人気のあるおもちゃです。

●おもちゃを通して育てていく子どもたち

子どもたちにとって年の離れた相手と遊べるのはすごく嬉しいことと、大会などのイベントを行うと、小学生の方から、中、高校生や大人に対戦を申し込んだりしています。

私も時間があるときには、ミニ四駆の改造を手伝ったり、カードゲームの相手をしたりしています。年の差があってもコミュニケーションが

シヨンの手段となるのがおもちゃの魅力だし、その交流の場となるのがおもちゃ屋だと思っています。

店に来る子どもたちの中には、いたずらをしたり、店の中を走り回って怒られたりしながらも、懲りずに来店する子どもたちもいます。そんな子どもたちも大きくなると、礼儀正しく自分から挨拶をするようになったり、あと片づけをしていくと、ずっと横に来て手伝ってくれるようになったりと、子どもたちのそんな姿が見られるのも楽しみのひとつです。

●世代を超えて

当店には、子ども時代によく来ていた方が親になり、あるいは、おじいちゃんおばあちゃんになって、今度はお子さんやお孫さんと一緒に来店してくださったり、今は矢板を離れていても、帰省したときには、昔良く来ていたのが懐かしくて来店してくださるお客様がたくさんいます。

今現在お店に来てくれる子どもたちが大人になったときにも、そんなふうな二世代、三世代で来店してくれるようなお店にしたいと思っています。



●業界のつながり

他の業界と比べて、全国の同業者(おもちゃ

屋さん)との距離が近いのも面白いところかもしれません。

昨年は、全国の玩具専門店で開催のイベントを企画し連絡を取り合いながら、全国一斉同日開催のハイパーヨーヨー大会やジグソーパズルの早組大会を行いました。

面識がない方もたくさんいるのに、おもちゃ屋さんというだけでつながっていきける不思議な業界です。